

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和4年第34週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和4年第34週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和4年第34週（令和4年8月22日から令和4年8月30日まで）

第34週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）RSウイルス感染症 3）ヘルパンギーナでした。

手足口病の定点当たり患者報告数は6.69人と前週（6.06人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は1.81人と前週（2.53人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は1.69人と前週（1.22人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

今週のトピックス

“腸管出血性大腸菌感染症に要注意！”について取り上げました。

腸管出血性大腸菌感染症は、強い毒素を産生する大腸菌（O157、O26など）を原因とし、激しい腹痛や頻回の水様性下痢、血便などの消化器症状を引き起こす感染症です。感染経路は経口感染であり、汚染された食品や患者の便を介して、菌が口から入ることによって感染します。

腸管出血性大腸菌は、主に牛の腸管内に常在しますが、特に夏場は保菌率が高くなるといわれており、これに伴い感染者数も例年6～9月に増加します。川崎市においても、今年7月以降に報告数が増加し、第34週（8月22日～28日）までに計22件の報告がありました。感染を広げないために、食品の適切な取扱いや手洗いなどの予防対策を徹底しましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

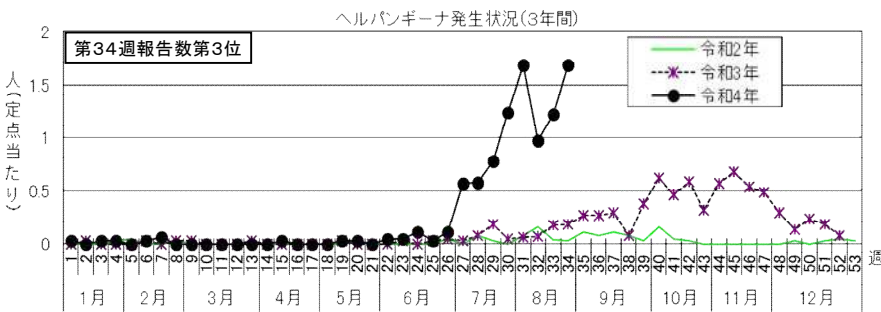
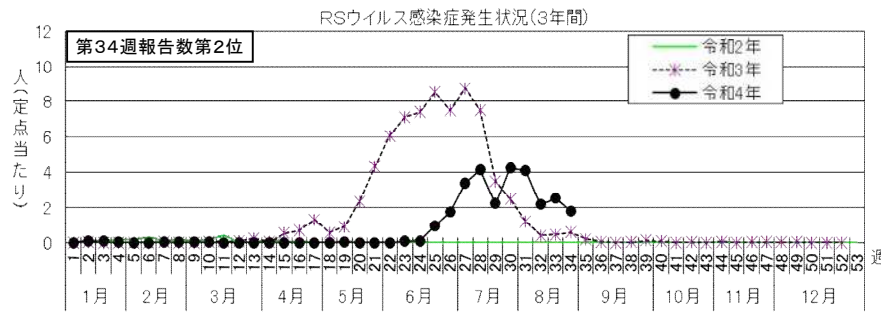
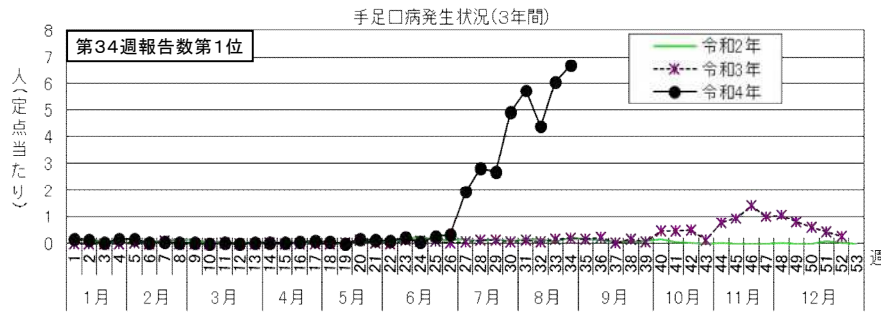
連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年8月22日（月）～令和4年8月28日（日）〔令和4年第34週〕の感染症発生状況

第34週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) RSウイルス感染症 3) ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は6.69人と前週（6.06人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は1.81人と前週（2.53人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は1.69人と前週（1.22人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



腸管出血性大腸菌感染症に要注意！

腸管出血性大腸菌感染症は、強い毒素を産生する大腸菌（O157、O26など）を原因とし、激しい腹痛や頻回の水様性下痢、血便などの消化器症状を引き起こす感染症です。感染経路は経口感染であり、汚染された食品や患者の便を介して、菌が口から入ることによって感染します。

腸管出血性大腸菌は、主に牛の腸管内に常在しますが、特に夏場は保菌率が高くなるといわれており、これに伴い感染者数も例年6～9月に増加します。

川崎市においても、今年は7月以降に報告数が増加し、第34週（8月22日～28日）までに計22件の報告がありました。感染を広げないために、食品の適切な取扱いや手洗いなどの予防対策を徹底しましょう。

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症発生状況
 -令和4年(第34週まで)と過去5年間平均の比較-



腸管出血性大腸菌感染症の予防対策

食中毒予防対策

生肉や加熱不十分な肉は食べない。



生で食べる野菜は流水でよく洗う。



肉類は中心部まで十分に加熱する。（75℃、1分以上）



肉、魚、野菜で調理器具を使い分ける。



二次感染予防対策

排便後やおむつ交換後、食前の手洗いを徹底する。



おむつ交換は決まった場所で行い、おむつは袋に入れすぐに捨てる。

